

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第24週の発生動向

全数報告の感染症 (24 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：報告なし。5 類感染症：アメーバ赤痢 2 例、急性脳炎 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70 歳代	男	無症状病原体保有者	-
		都城	60 歳代	女	無症状病原体保有者	-
		高鍋	80 歳代	女	結核性胸膜炎	発熱、胸痛
3類	腸管出血性大腸菌感染症	中央	20 歳代	男	無症状病原体保有者	O91(VT1 産生)
5類	アメーバ赤痢	都城	30 歳代	男	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見
		延岡	30 歳代	男	腸管アメーバ症	症状なし
	急性脳炎	宮崎市	0~5歳	女	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害

定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 751 人 (定点当たり 24.5) で、前週比 106% とやや増加した。前週に比べ増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【伝染性紅斑】

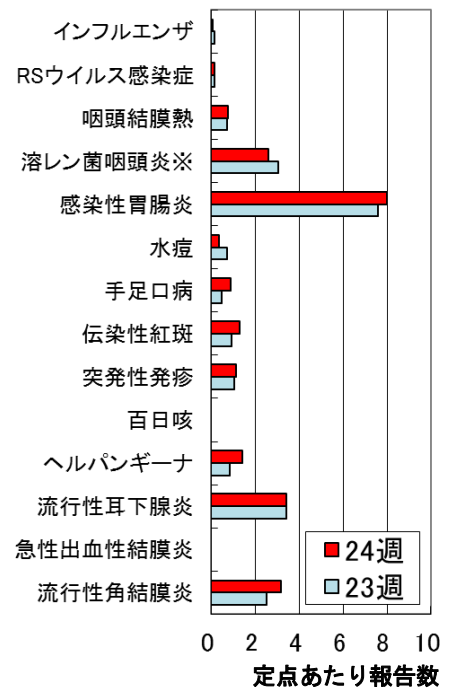
・報告数は 47 人 (1.3) で、前週比 142% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.67) の約 2.0 倍であった。小林 (3.7)、中央 (2.0) 保健所からの報告が多く、年齢別では 6 歳が全体の約 2 割を占めた。

【流行性耳下腺炎】

・報告数は 123 人 (3.4) で、前週比 100% と横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値* (0.75) の約 4.6 倍であった。日向 (9.0)、小林 (8.3)、延岡 (7.8) 保健所からの報告が多く、年齢別では 3~4 歳が全体の約 3 割を占めた。

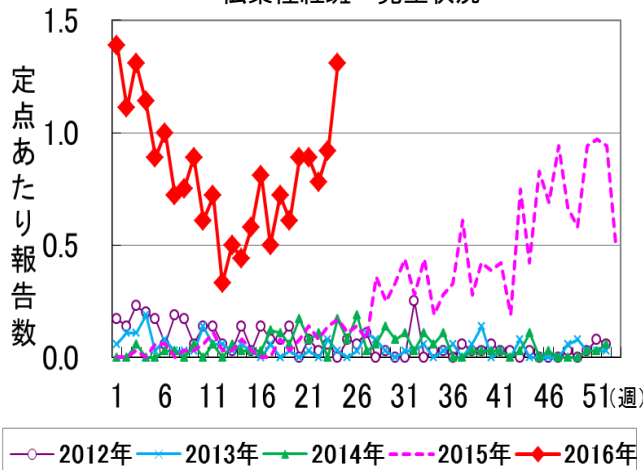
* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

《前週との比較》

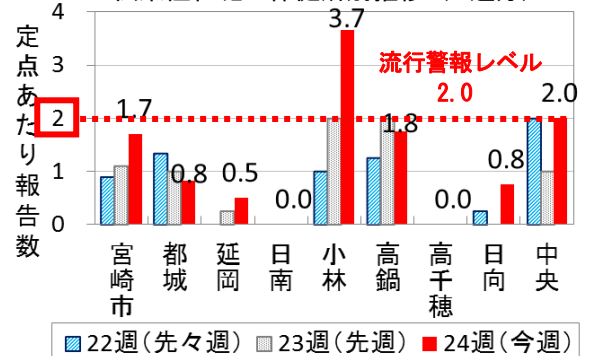


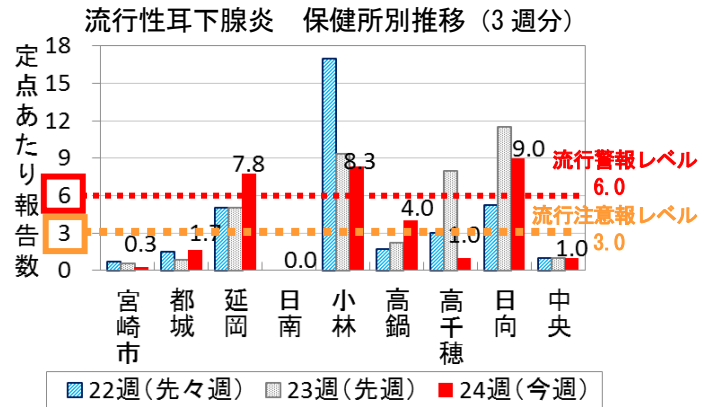
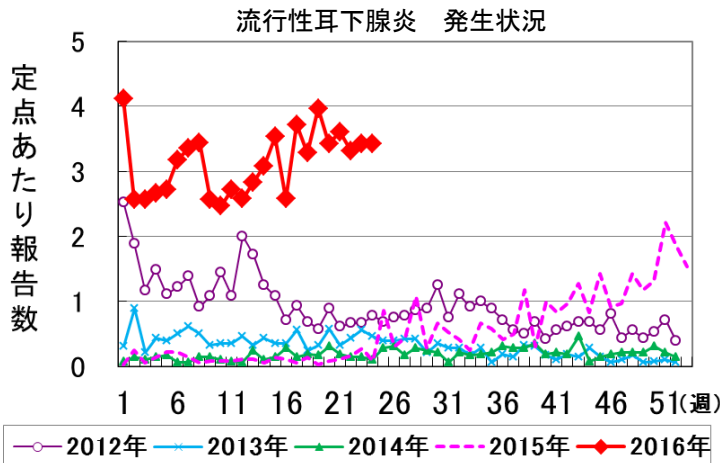
※ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

伝染性紅斑 発生状況



伝染性紅斑 保健所別推移 (3 週分)





★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：延岡保健所から2例、都城保健所から1例報告があった。0～4歳が1例、5～9歳が2例であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所、高鍋保健所から3例ずつ報告があった。0～4歳、5～9歳、10歳代が2例ずつであった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(7.8)
日南	なし
小林	伝染性紅斑(3.7)、流行性耳下腺炎(8.3)
高鍋	流行性耳下腺炎(4.0)
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(9.0)
中央	伝染性紅斑(2.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

流行注意報レベル基準値

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成28年6月20日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	女	2016.6.2	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2016.6.17
EPEC(OUT:H2)	70歳代	女	2016.6.3	—	便	2016.6.14
<i>Salmonella</i> Saintpaul (O4:e,h:1,2)	70歳代	女	2016.6.6	—	便	2016.6.15
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	60歳代	女	2016.6.2	—	血液	2016.6.14
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0～4歳	男	2016.6.6	発熱(39.2℃)、出血性下痢	便	2016.6.15
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	20歳代	男	2016.6.8	—	便	2016.6.14

60代後半女性の血液から *Salmonella* Enteritidis が検出された。*S. Enteritidis* は2010年以前、県内で最も多く分離される血清型であったが、2011年以降は年に数株しか分離されていない。また、国内におけるサルモネラ属菌による食中毒は発生件数、患者数ともに減少傾向にあるが、依然として死亡事例や大規模事例も発生している。今後、気温の上昇とともに食中毒が多発する季節になることから、家庭内・外問わず食品の衛生管理には十分注意していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
インフルエンザウイルス B型(山形系統)	10歳代	男	2016.06.15	インフルエンザB型、38.7℃ 頭痛、上気道炎	鼻汁	2016.06.20
インフルエンザウイルス B型(山形系統)	5～9歳	女	2016.06.15	インフルエンザB型、37.8℃ 頭痛、上気道炎	鼻汁	2016.06.20
パレコウイルス3型	30歳代	男	2016.06.10	パレコウイルス3型感染症 39℃、筋肉痛、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.06.14
エコーウイルス16型	0～4歳	女	2016.05.25	新生児発熱、無呼吸発作	便	2016.06.13
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.05.09	エンテロウイルス感染症 37.8℃、丘疹	咽頭ぬぐい液	2016.06.13
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.05.16	エンテロウイルス感染症 38.1℃、上気道炎、丘疹	咽頭ぬぐい液	2016.06.13
エコーウイルス18型	0～4歳	女	2016.05.27	新生児発熱、38.3℃	便 髄液	2016.06.13 2016.06.20
エコーウイルス25型	0～4歳	女	2016.05.27	ウイルス感染症、38.8℃、胃腸炎	便 咽頭ぬぐい液	2016.06.13

○パレコウイルス感染症の成人からパレコウイルス3型が検出された。パレコウイルス感染症は乳幼児に多くみられ、主に呼吸器症状、胃腸炎、発疹症などの原因となる。また乳児では敗血症や脳炎といった重篤な症状を起こすことが知られている。成人疾患との関連では、2012年に山形県衛生研究所らのグループが世界で初めて報告している。成人の多くは不顕性感染であるが、山形県衛生研究所が発行している衛研ニュース（June 10, 2014, No172）によると、筋痛症を発症した成人からパレコウイルス3型が検出され、乳幼児を介した感染が推測されると記載されている。成人での報告は少ないことから、今後、症例が増えれば感染経路等も明らかになってくると思われる。

🇯🇵 全国 2016 年第 23 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 23 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	396 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	65 例	腸チフス	2 例
4類感染症	E型肝炎	6 例	A型肝炎	3 例	エキノкокクス症	1 例
	ジカウイルス感染症	1 例	重症熱性血小板減少症候群	2 例	つつが虫病	3 例
	デング熱	6 例	日本紅斑熱	7 例	マラリア	3 例
	レジオネラ症	24 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	14 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	11 例
	急性脳炎	3 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例
	後天性免疫不全症候群	21 例	侵襲性インフルエンザ感染症	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症	29 例
	水痘（入院例）	4 例	梅毒	60 例	播種性クリプトコックス症	3 例
	破傷風	4 例	風しん	7 例	麻しん	2 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 104%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病とヘルパンギーナであった。減少した主な疾患はインフルエンザと流行性耳下腺炎であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 9,960 人(3.2)で前週比 108%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.7)の約 1.2 倍であった。山形県(5.4)、北海道(5.1)、千葉県(4.9)からの報告が多く、年齢別では 4～5 歳が全体の約 3 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 2,978 人(0.94)で前週比 85%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.52)の約 1.8 倍であった。宮崎県(3.4)、山形県(2.2)、鹿児島県(1.9)からの報告が多く、年齢別では 4～5 歳が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第24週(6月13日～6月19日)

疾病名		第23週	第24週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	9	3	3								
	定点あたり	0.15	0.05	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	6	6	4	1				1			
	定点あたり	0.17	0.17	0.40	0.17	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	26	27	4	3	7	2	7	2		2	
	定点あたり	0.72	0.75	0.40	0.50	1.75	0.67	2.33	0.50	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	110	94	25	22	3	11	8	9		15	1
	定点あたり	3.06	2.61	2.50	3.67	0.75	3.67	2.67	2.25	0.00	3.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	273	288	74	38	12	24	57	36	6	29	12
	定点あたり	7.58	8.00	7.40	6.33	3.00	8.00	19.00	9.00	6.00	7.25	12.00
水痘	報告数	26	12	6	2	2	1				1	
	定点あたり	0.72	0.33	0.60	0.33	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	17	32	11	2	4	5	1	4		4	1
	定点あたり	0.47	0.89	1.10	0.33	1.00	1.67	0.33	1.00	0.00	1.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	33	47	17	5	2		11	7		3	2
	定点あたり	0.92	1.31	1.70	0.83	0.50	0.00	3.67	1.75	0.00	0.75	2.00
突発性発しん	報告数	37	40	13	5	6	5	1	3		5	2
	定点あたり	1.03	1.11	1.30	0.83	1.50	1.67	0.33	0.75	0.00	1.25	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	31	51	13	2	15	5	2		4	10	
	定点あたり	0.86	1.42	1.30	0.33	3.75	1.67	0.67	0.00	4.00	2.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	123	123	3	10	31		25	16	1	36	1
	定点あたり	3.42	3.42	0.30	1.67	7.75	0.00	8.33	4.00	1.00	9.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	15	19	16	3							
	定点あたり	2.50	3.17	5.33	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	3		1	2						
	定点あたり	0.14	0.43	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	7	6	3					3			
	定点あたり	1.00	0.86	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	2										
	定点あたり	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～24週)

2類感染症	結核	101例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	2例
	つつが虫病	5例	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例(2)	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	急性脳炎	8例(1)	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例

()内は今週届出分、再掲